



通訳アプリで交流 インドネシア選手と

「2015東京国際ユース（U-14）サッカー大会」（5月1～4日、読売新聞社など後援）に出場するジャカルタチーム（インドネシア）の選手が30日、東京都市大学等々力中（世田谷区）を訪問した。音声を認識して通訳するスマートフォンのアプリを使い、同中のサッカー部員と交流した＝写真＝。

アプリは、独立行政法人「情報通信研究機構」が開発した「Voice Tra 4U」。音声通訳は14言語、文字だけなら27言語に対応でき、東京マラソンなどでも活躍した。

この日は、同中の部員が「好きな日本のサッカー選手は」と質問すると、滑らかなインドネシア語に翻訳され、ジャカルタの選手は「カガワ、ホンダ」と笑顔で答えていた。同中3年の梨本悠貴君（15）は「日常会話であれば十分に翻訳できる。世界が近くなった気がする」と話した。